

第8回 即興型ディベート基礎講座

講義『環境と企業』 Report

- 日 時 2014年12月20日(土)
- 場 所 賛土館 碧落
- 指 導 者 中川智皓先生、社会人4名、九州大学生4名
- 参 加 者 生徒43名(男子18名/女子25名)
- 準 備 物 スクリーン、PC(1台)、プロジェクター(1台)、スピーカー
- 講 義 環境と企業(講師:伊藤 直美 先生)
- 実 践 演 習 Seiseiko high school should separate garbage into eighteen categories.
(済々黌はごみを18種類に分別すべきである)

1	<p>中川先生より(伊藤先生の紹介)</p> <p>株式会社東芝セミコンダクター&ストレージ 社知的財産部の特許の権利化、権利活動に従事しておられ、社会人になってからディベートを始められた。2014年 ESUJ 社会人ディベート大会で第三位に入賞されている。</p>	
2	<p>伊藤先生より</p> <p>本時の目標は『講義を聞きながら自分たちにできる環境保護活動は何があるのか考える』こと。</p> <p>1) 東芝の紹介</p> <p>企業の沿革や概要、業績などの紹介。業績が安定している会社でないと、環境保護活動は出来ないのではないか、と考えている。また、大企業に属する東芝では、海外の人と電話会議をしたり、出張したりと日本にいながら海外との人と仕事をすることが多い。</p> <p>2) 東芝の環境保護活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの Green で各種施策を展開している。 ①Green of product (環境性能のよい製品作り) ②Green of process (製品作りの過程においても環境負荷を少なくする) ③Green by technology (ソーラーパネル、太陽 	  

	<p>光発電など)</p> <p>④Green management (人材育成)</p> <p>上記の4つを展開していくことで、エコ・リーディング・カンパニーとしての地位を確立している。</p> <p>また環境というファクターを通して、地域住民との関係も大切にしている。地域住民が不安を感じるような企業ではいけない、ということを念頭に置き、住民から寄せられた疑問などは会社と関係のないことでも、調査している。</p> <hr/> <p>3) 仕事</p> <p>知的財産部では特許を申請するための書類を開発者と話し合いながら準備し、特許を申請したい国の特許庁に出願。特許の許可がおりたらその権利を活用していく。</p> <p>各国の特許庁への申請の際にも英語を使っているが、イギリスやアメリカで特許申請のための研修を受けたりもしている。</p>	  
<p>3</p>	<p>英語でディベート</p> <p>Seiseiko high school should separate garbage into eighteen categories.</p> <p>(济々髙校はゴミを18種類に分別すべきである)</p> <hr/> <p>各テーブルのベストディベーターより</p> <p>・初回から振り返って成長した点、本時の感想、次回のディベート大会への抱負などを交えて。</p>	
<p>4</p>	<p>まとめ</p> <p>●伊藤先生より</p> <p>・「考える癖」を身につけ、日常生活を過ごしていった欲しい。</p> <p>●中川先生より</p> <p>・講座の振り返り。</p>	